|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 授業科目名 | 体育実技 | 教員名 | 後藤　芳郎 | 免許・資格との関係 | 高等学校教諭（英語） | 必修 |
| 中学校教諭（英語） | 必修 |
|  |  |
| 授業形態 | 実技 | 担当形態 | 単独 |  |  |
| 科目番号 | TCE109 | 配当年次 | １年次前期 | 卒業要件 |  |  |
| 単位数 | １単位 |  |  |
| 科目 | 教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目 | | | | | |
| 施行規則に  定める科目区分  又は事項等 | 体育 | | | | | |
| 科目 | 自主研究科目 | | | | | |
| 系列 | 体育 | | | | | |
| 一般目標 | ・生涯にわたる健康づくりの基礎を身に付ける。  ・各種の運動を楽しむことで体力の維持・増進を図り、心身ともに健康で豊かな学生生活を実現する。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 各種運動の楽しさを味わい、自己の体力向上や増進を図る態度を育てる。  (2) ゲームや練習を通して、運動の特性に応じた技能等の能力を身に付ける。  (3) ペアやチームで、めあてに向かって協働する姿勢を育てる。 | | | | | |
| ディプロマ・ポリシーとの関係 | 本講義は、学科のディプロマポリシーに掲げる「3、 課題発見及び問題解決能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。 | | | | | |
| 授業の概要 | 各種の運動やスポーツを楽しむことで，体力の維持・増進を図っていくことを実践していく。卓球・バレーボール・バドミントンを中心に運動能力の向上を図る。学習者それぞれがリーダーシップを発揮し合い、主体的に運動とかかわる場づくりに努める。授業形態は，実技とする。 | | | | | |
| 授業計画 | 第１回：授業への取組みに関するオリエンテーションとグループ編成の在り方（目標(１)）  ・運動実践と健康及び準備運動等に関する基本的な事項について理解する。  ・卓球の楽しみを知り、次回から第６回までの卓球練習及びゲームのためのペアやチームをつくる。  第２回：卓球のゲーム構造とラケットの選択と持ち方の基礎①、安全に配慮した卓球台やネットの準備・片付け（目標(２)）  ・フォアハンドの体の動かし方の基本を身に付ける。  ・プレースタイルに合った道具（シェークハンド・ペンホルダー）の選択と型を知る。  第３回：卓球基礎②としての素振り、スタイルつくり、簡易ゲーム（目標(２)）  ・自分のプレースタイル（カット型・ペンドライブ型）に応じた基本姿勢としての素振りを練習する。  第４回：卓球基礎③としての素振り、バックハンド素振り、簡易ゲーム（目標(２)）  ・バックハンドの素振りを加える。シェークハンド・ペンホルダーのバックハンドの素振りを知り、ゲーム化する。  第５回：卓球基礎④としてサービス練習と簡易ダブルスゲーム。（目標(３)）  ・サービス練習とレシーブ練習を取り入れ、相手チームを変えながら正規ルールのゲームに慣れる。  第６回：卓球基礎を応用したゲーム（目標(１)）  ・今もっている力で、相手を変えながら正規ルールでダブルスゲームを楽しむ。  第７回：バレーボール基礎①のグルーピング、ゲームの楽しさ理解、安全で能率的なネットの準備・片付け（目標(１)）  ・拮抗するグループ編成とし、ゲームの本質をとらえたバレーボールの楽しさを考える。安全で能率的なネットの準備・片付けを確認し、ためしのゲームを楽しむ。  第８回：バレーボール基礎②としてパス・レシーブ練習とルールを工夫したゲーム（目標(２)）  ・オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ練習とルールを工夫してのゲームを楽しむ。  第９回：バレーボール基礎③として３弾攻撃練習とルールを工夫したゲーム（目標(２)）  ・あわてて相手コートにボールを返さず、レシーブ・トス・スパイクの攻撃パターンをつくるようにする。  第１０回：バレーボール基礎を応用して正規ルールを意識したゲーム（目標(３)）  　・連携を大切にしながらつなぐバレーボール、攻めるバレーボールを楽しむ。  第１１回：ほぼ正規のルールによるゲーム（目標(１)）  ・みんなの気持ちを一つにして、これまでに身に付けたチーム力を発揮する場づくりをしながらほぼ正規のルールでゲームを楽しむ。  第１２回：バドミントン基礎①としてゲームの構造、ネットの立て方、ラケットの持ち方等　　　　（目標(１)）  ・２人組をつくる。ダブルスのゲームの仕方を理解する。ラケットの握り方・振り方を１人で、及び２人組で練習する。  第１３回：バドミントン基礎②としての足の運び、素振り、簡易のダブルスゲーム（目標(２)）  ・コート上における体の動かし方の基本を身に付ける。移動の仕方に慣れる（前、後、左、右、斜め前方、斜め後方）、効き足の使い方を知る（フォアハンド、バックハンド）、上半身の柔らかい動きも併せて考える。簡易ゲームを楽しむ。  第１４回：バドミントン基礎③としてのサービス、レシーブ、ダブルスゲーム（目標(３)）  ・サービスを確実に入れる。サービスレシーブを確実に返す。正規のルールでゲームを楽しむ。  第１５回：バドミントン基礎を応用したダブルスゲーム（目標(１)）  ・正規のルールで、２人で気持ちを一つにしてリーグ戦を楽しむ。  期末試験：試験期間中に実施 | | | | | |
| 学生に対する  評価 | 服装の準備(30%)、期末試験(70%)で評価する。  なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。  ・コメントを記載して返却する。  ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。  ・答案例を配布する。 | | | | | |
| 時間外の学習  について | （事前・事後学習として週２時間以上行うこと。）  事前学習：毎回、それぞれのグループで、現在の力量に応じた練習・ゲーム内容を検討し、練習・ゲーム計画を作成する。  事後学習：毎回、事前学習で準備した計画をもとにした実際の活動を振り返り、次時の計画に発展させる。  その他：毎週土日に必ず振返りを行うこと。 | | | | | |
| 教材にかかわる情報 | テキスト：特になし  　参考書：  　参考資料等：その都度必要に応じて手作り資料を印刷・配布する。 | | | | | |
| 担当者からの  メッセージ | 特になし | | | | | |
| オフィスアワー | 授業の前後の時間（メール等でアポイントを取ること。） | | | | | |